

令和4年度林業成長産業化構想技術者育成研修 (ICT研修) 中部ブロック研修を実施

ブロック研修においては、ICT等の最新技術を活用した効率的かつ効果的な路網の整備や、地域の特性と森林資源状況を考慮した森林整備計画、資源活用計画等により、プロダクトアウト（製造側からの提供）からマーケットイン（顧客のニーズの反映）へ思考を転換し、サプライチェーンまでを含めた構想を作成するなど、林業の成長産業化に資する構想を作成できる技術力の養成を目的に、全国6ブロックで実施しました。

中部ブロックでは、11月15日から18日の4日間、岐阜県下呂市及び加茂郡七宗町（現地研修）において、埼玉県、富山県、石川県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県の職員10名、民間事業体職員3名、国有林職員2名、計15名が参加し研修を実施しました。本年度は、約1,400haの民有林と国有林の演習地の内、主に国有林1,000haについて、森づくり構想を念頭に10年間の第1・第2期の基幹林道の新規計画と、5年間の第1期森林整備計画（木材生産）について、近隣の林業事業体、木材加工・流通情報を踏まえた検討結果を発表するカリキュラムで3班に分かれ行いました。また、路網の検討にあたっては、路網設計支援ソフトを使用して路網整備の促進を図るもので、QGIS（※地理情報システムの閲覧、編集、分析機能を有するオープンソースソフトウェア・GISソフト）や、航空レーザー計測等で得られた森林現況や地形データ等を基に林道などの路網を机上で設計し、現地の眺望や踏査、ドローンによる現地確認等で現況を把握し修正を行う内容で取り組みました。この研修により、木材生産基盤整備のための高度技術者等を育成し、生産性の向上、施業の低コスト化、資源の循環利用促進等により、林業の成長産業化を担う人材を育成していきます。

【1日目】「開講式、森林資源把握・路網配置計画演習」

QGISデータ及び図面で演習対象地の森林現況及び地形の把握を行い、森林及び路網の整備計画や地域特性に応じた森づくりの構想等について大局的に検討する視点を養うことを目標に取り組みました。



ブロック研修の目的を説明（林野庁 吉岡課長補佐）



森づくり構想（横井講師）



会場は広々とした空間（下呂市民会館 大会議室）



PCデータで路網配置の検討

【2日目】「現地実習」

演習地（七宗国有林）へ移動し、「地域特性に応じた森づくりの構想」「森づくり検討・森林現況の把握・路網配置の調査」について、昨日机上演習で検討した演習地（現地）の眺望、資源量や地形・地質、周囲の土地利用等についてドローンも活用し現地で確認するなど、路網計画や森林整備計画を再構築しました。



森づくり構想の現地実習
(横井講師(右側))



調査結果に基づき現地の概要を説明
(計画課 松木計画調整官)



現地にて高齢級箇所の森づくりについて意見交換



小原講師によるチャート(珪岩)の説明



遠望と図面により現地を確認



森林技術・支援センター安江専門官から
ドローンの操作方法等についての説明

【3日目】「林業成長産業化構想演習」

机上演習と現地実習の結果を踏まえて、5年間の路網整備・森林整備（木材生産）の計画を含めた林業成長産業化に資する地域構想を作成。路網計画が市町村森林整備計画上のゾーニングや更新方法と整合が取れているかなど、計画的な路網整備を行うための視点を養いました。



本多進行役からプレゼン資料作成手順等の説明



現地踏査後路網計画を再検討



現地踏査を踏まえ森林整備計画の再検討



真剣な眼差しで予定路線等を再検討



現地踏査を踏まえ検討資料を整理



お昼休みは森林技術・支援センター新庁舎でCLT等を見学

【4日目】【発表、ディスカッション、講評、閉校式】

各班演習の発表とディスカッションを通じて、構想の実現に向けた計画立案と地域の利害関係者との合意形成に必要なプレゼンテーション・コミュニケーション能力の向上を図りました。



2班発表



3班発表



講評（小原講師）



講評（林野庁 松山対策官）



閉校式（森林技術・支援センター 四ツ嶽所長）



集合写真（撮影時のみマスクを外しました）

◎受講生へのアンケート結果（抜粋）

- ・地形や地質の情報から机上で判断していくことに難しさを感じた
- ・どこから手をつけたら良いか迷ったが、班内で意見を出し合い良いアイデアが出た
- ・森づくりについて幅広い知識、情報を活用し、根拠を持って取り組む必要があると感じた
- ・目標林型へ導く際に注意すべきこと、エビデンスに基づいて施業することの重要性がわかった
- ・地位が森づくりにとって重要ということがわかった
- ・現地踏査により、図上では見えなかった地形の状況などがわかった
- ・FRDの有効性と現地踏査の両方を理解することができた
- ・ドローンにより森林調査が容易になったが、操作する技術など新たに習得する必要があると感じた
- ・FRDやQGISの活用について、もう少し時間があれば良かった
- ・森づくり検討は新たな視点を学ぶことができて刺激的だった。また、実践的な内容でとても勉強になった
- ・プレゼン資料のまとめ時間が少なく、もっと班員と意見交換をしたかった
- ・とてもスムーズに進行していた。アウトプットできるカリキュラムが組まれていた
- ・小さい疑問も親身に答えていただくなど、丁寧に対応していただき大変助かった